



2007年7月26日

各位

川崎近海汽船株式会社  
代表取締役社長 森原明  
(問合せ先)  
経理部長 高田雅彦  
TEL:03-3592-5829  
経営管理部長 友井彰彦  
TEL:03-3592-5816

当第1四半期(2007年4月1日～2007年6月30日)におけるわが国経済は、企業収益の改善が見られ、個人消費、民間設備投資ともに堅調に推移し景気は緩やかな回復基調を辿っております。

海運業界においても海上輸送量は底堅く推移しておりますが、燃料油価格の更なる上昇により、運航コストの増加を余儀なくされました。

このような状況下、当社の第1四半期の連結売上高は110億12百万円となり前年同期比では26.2%の増収となり、連結営業利益は9億59百万円となり40.6%の増益、連結経常利益は9億円となり42.1%の増益、連結当期純利益は5億26百万円となり39.3%の増益となりました。

#### 第1四半期比較(連結ベース)

(単位:百万円)

	平成20年 3月期	平成19年 3月期	増減額	増減率
売上高	11,012	8,728	2,284	+26.2%
営業利益	959	682	277	+40.6%
経常利益	900	633	267	+42.1%
四半期純利益	526	378	148	+39.3%
平均為替レート	¥118.91	¥115.62	¥3.29	2.8%
平均バンカー価格	¥53,550	¥51,650	¥1,900	3.7%

事業の部門別業績概況は次の通りです。

#### 「近海部門」

不定期船市況は昨年来上昇を続けており、石炭等バラ積貨物の輸送量も増加したことにより高水準での収益が確保できました。また鋼材、雑貨、木材製品等の定期船貨物でも比較的安定した輸送量を確保しました。

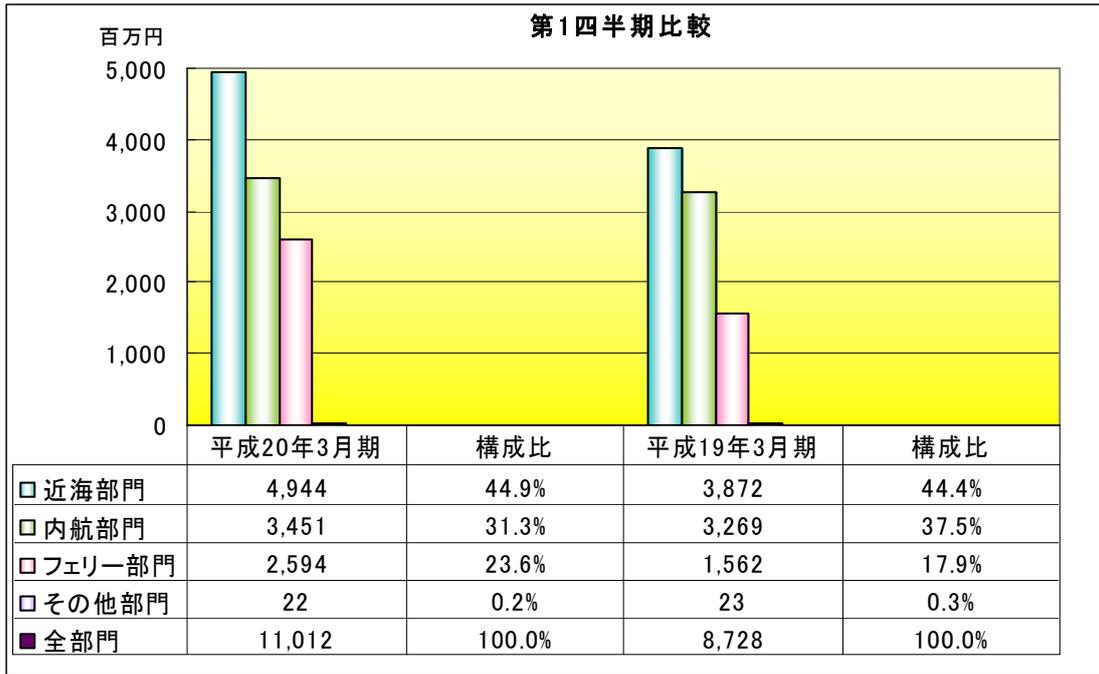
同部門の連結売上高は49億44百万円となり前年同期に比べて27.7%の増収となりました。

「内航部門」

鉄鋼、セメントメーカー向け石灰石専用船及び製紙メーカー向け紙輸送専用船は安定した輸送量を確保しました。また、釧路／日立航路で昨年夏に新造大型 RORO 船を代替投入し、同時期に新規開設した北九州／日立航路でも一般雑貨等を積極的に輸送しました。同部門の連結売上高は34億51百万円となり前年同期に比べて5.6%の増収となりました。

「フェリー部門」

八戸／苫小牧航路では、昨年12月より1日4便体制となりトラック・旅客数ともに大きく輸送量を伸ばしました。一方東京／苫小牧航路では、従来のデイリーサービスを維持し2隻による20時間体制から3隻による30時間体制へ移行しました。同部門の連結売上高は25億94百万円となり前年同期に比べて66.0%の増収となりました。



## 連結業績予想の進捗状況

2007年5月9日に公表しました連結業績予想については現時点において略計画通り達成しており中間期および通期の業績予想に変更はありません。

なお進捗状況は次の通りであります。

(単位:百万円)

	平成20年3月期 第一四半期	平成20年3月期 中間予想	進捗率(%)
売上高	11,012	21,800	50.5%
営業利益	959	1,850	51.8%
経常利益	900	1,800	50.0%
当期純利益	526	1,000	52.6%

	平成20年3月期 第一四半期	平成20年3月期 通期予想	進捗率(%)
売上高	11,012	43,500	25.3%
営業利益	959	3,500	27.4%
経常利益	900	3,400	26.5%
当期純利益	526	2,000	26.3%